

## 動き出すか、ロシア極東の LNG 開発の新展開

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
常務理事 首席研究員  
小山 堅

ロシア極東・東シベリアにおける天然ガス・LNG 開発を巡って、また新たな展開が動き始めている。2 月 13 日、ロシア最大の石油会社、ロスネフチと国際メジャーのエクソンモービルは、両者が 2011 年に締結した戦略的協力合意 (Strategic Cooperation Agreement) の下で、協力をさらに拡大することを合意した。この新たな合意では、ロシア北極圏大陸棚における約 60 万平方キロに及ぶ 7 鉱区が両者による共同探鉱の対象とされた他、エクソンモービルが進めるアラスカ・ノーススロープの Point Thomson 開発事業の権益 25% をロスネフチが取得する権利が付与された。さらに上記に加えて、両者は、ロシア極東地域における LNG プロジェクトの経済性を検討する共同研究実施に関しても合意したのである。

ロシア北極海の開発も、アラスカのガス開発も、非常に厳しい気候・環境の下でのまさにフロンティア地域での開発である。技術的・経済的な高いハードルを乗り越えることが要求される一方、膨大な資源開発につながることを期待されるチャレンジングな事業であり、今後が大いに注目される事業となろう。同時に、ロシア極東における LNG 事業の検討も、その帰趨や将来の展開は、わが国の、そしてアジア全体の、今後の LNG・天然ガス市場を展望する上で大きな意味を持ちうるだけに大いに注目すべきである。

ロシア極東さらには東シベリア地域における天然ガス・LNG 開発は、ガス需要が拡大するアジア地域にとって、地理的な近接性を持つ新たな大規模供給源として大きな期待が寄せられてきた。福島事故後に LNG 輸入が急増している日本、日本に次ぐ世界第 2 位の LNG 輸入大国で今後も堅調なガス需要増加が見込まれる韓国、今後の更なる経済発展の中でクリーンなエネルギーへの転換が求められるため大幅な需要増加が期待される中国、新規 LNG 需要地域として浮上する ASEAN など、ロシアにとってアジア地域は新たな販路の大幅拡大につながる有望な成長市場と位置付けられている。特に、従来の主力市場である欧州では、ガス需要低迷や販売・価格条件等を巡る輸入国・需要家からの「圧力」の存在で、ロシアにとって厳しい状況が続き、どうしても「東方を向く」新たな戦略が必要となっているだけに、対アジア市場戦略展開は必須となっているのである。

今回の合意発表では、両者は、今後数週間で共同の作業グループを立ち上げ、利用可能な天然ガス資源を活用した LNG プロジェクトの実現可能性を検討する、との方針も発表し

ている。まさに事業検討が始まる場所であるが、純粋な経済性判断や技術的問題の検討以外にも、LNG 輸出問題を巡るロシア国内の綱引き・パワーバランスといった国内（政治）問題の動向にも留意する必要があるだろう。

従来は、ロシアでは天然ガス（LNG）輸出は国営ガス会社ガスプロムの専権事項であった。しかし、最近になってロシア国内で、LNG 輸出の自由化を求める動きも出ており、13 日にはプーチン大統領が LNG 輸出の段階的自由化を検討すべく関係当局に指示を出した。軌を一にしたタイミングで発表された両者による LNG 事業の検討は、ロシアにおける LNG 輸出プレイヤーの多様化に向けた風穴となる動きかもしれない。しかし、新たなプレイヤーの登場は、逆にロシアで検討されてきた従来の LNG および天然ガス輸出計画にとって、競争条件を変化させ、複雑化を増す要因となる可能性も否定はできない。

また、両者が LNG 事業化の基礎とする「利用可能な天然ガス資源」とは何を指すのか、も大いに注目される場所となるだろう。新たな資源開発を考えるのか、既発見・未開発の資源を活用するのか、様々なオプションがありえよう。しかし、当然それによって経済性など事業実現性には差異が出てくる。その点、一部報道によれば、両者が関与しているサハリン 1 プロジェクトのガス資源活用も検討される可能性があるという。

サハリンのガス開発では、ガスプロムと三井物産・三菱商事が参加するサハリン 2 プロジェクトが LNG 輸出を先行し成功しているが、新たに LNG 設備を追加し輸出増強も検討されている。また、APEC ウラジオストックサミットにおいて、今後の協力体制に関する覚書が締結されたウラジオストック LNG プロジェクト（ガスプロムが参加）も検討が行われている。また、その他にも、北朝鮮経由で韓国向けの天然ガスパイプライン計画や、サハリンからの日本向けパイプライン構想など、アジア市場を睨んだ LNG・天然ガス輸出計画が複数存在するだけに、今回の新たなロスネフチによる LNG 事業の検討は、プロジェクト間の競争関係に大きく影響を及ぼす可能性があるとも見ても良いだろう。

両者による合意発表後、ロスネフチ CEO のセチン氏は、17 日から中国を訪問し、19 日には日本を訪問、両国のエネルギー関係者と精力的に意見交換を進めたとされている。まさに、新展開を踏まえた積極的な対アジア戦略を自ら実践しているとも見られ、今後ロスネフチの動きはロシア極東およびアジア市場のガス開発を左右する最重要要因となるかもしれない。おりしも、21 日には、モスクワにおいて、森・元総理がプーチン大統領と会談し、エネルギー協力も含む様々な分野で意見交換を実施した。会談では安倍首相の親書も手渡され、日露関係の強化に向けた幅広い議論が行われ、今後の首相訪露の環境整備に向けた調整も進められた。エネルギー問題が双方に持つ重要性を鑑みると、今後の両国間のハイレベル議論の中で、LNG・天然ガスを含むエネルギー分野の協力についてどのような意見交換が行われていくのか、その成果はどのようなものになりうるのか、等の点は大いに注目していく必要があるだろう。

以上